

【取扱い厳重注意】

平成24年4月27日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 飯崎 準

平成24年4月26日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

文部科学省原子力規制室 [REDACTED] [REDACTED]

2 聴取日時

平成24年4月26日午後1時40分から同日午後2時00分まで

3 聴取場所

文部科学省15階会議室

4 聴取者

飯崎補佐、

※ 複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

5 ICレコーダーによる録音の有無等

 あり なし（理由：（「対象者の希望による。」など簡潔に記載））

第2 聴取内容

飯舘村における土壌モニタリングについて
別紙のとおり

第3 特記事項

なし

以上

【取扱い厳重注意】

別紙

1 3/19からの飯館村における土壌モニタリング調査について

文科省は、関係機関が行ったモニタリングデータを取りまとめることとされたため、各種モニタリングデータを取りまとめた上で公表している。

平成23年3月19日以降、福島第一原発から半径40km北西の飯館村の陸土から土壌を採取し分析した上で、kg当たりのBqを出している。

土壌の採取は、実際には福島県が実施しており、U-8型プラスチック容器を土中に差し込み、横からスライドさせて蓋をすることで採取している。この採取方法については、福島県が作成した「緊急時環境放射線モニタリングマニュアル」に記載がある（別添のとおり）。

U-8型プラスチック容器の高さが5cmなので、採取した土の厚さは5cmになる。これは、チェルノブイリ事故の際の分析で、セシウムの土中吸着が、表土から5cmのところまでであったため、5cmを採取基準としたものである。放射性ヨウ素も同様だったと思う。

採取場所は、毎回正確に同じポイントから採取しているわけではなく、割り当てられた地域内で、その日に空間線量を測った場所で土壌を採取している。

[Redacted text block]

以上

緊急時環境放射線

モニタリングマニュアル

平成20年3月

福島県

(2) 飲料水(蛇口水、水道源水)

ア 蛇口水の採取

配水管に溜まった水を数分間流し出したのち、核種濃度測定用として5ℓポリ瓶に直接採取し、容器に採取地点名、採取日時を記入する。

イ 源水の採取

貯水池等からバケツで汲み上げ、緊急時放射性ヨウ素測定用(採取地点での測定用)として20ℓポリタンク及び核種濃度測定用として5ℓポリ瓶に採取し、容器に採取地点名、採取日時を記入する。

なお、源水を採取する際には、できる限り浮遊物を取り除く。

ウ 採取の報告・記録

採取の報告は、行政無線等の通信連絡手段により、迅速かつ的確に情報収集チームに報告する。また、採取地点名、採取日時等を環境試料採取記録表(様式-4)に記入する。

(3) 牛乳(原乳)

ア 採取

飼育農家で搾乳され、牛乳缶等に保管された原乳を緊急時放射性ヨウ素測定用及び核種濃度測定用として5ℓポリ瓶に採取し、容器に採取地点名、採取日時を記入する。

なお、その際に搾乳時刻を確認する。

イ 採取の報告・記録

採取の報告は、行政無線等の通信連絡手段により、迅速かつ的確に情報収集チームに報告する。また、採取地点名、採取日時等を環境試料採取記録表(様式-4)に記入する。

(4) 野菜(葉菜類)

ア 緊急時放射性ヨウ素測定用試料の採取

緊急時放射性ヨウ素測定用として、V-5型スチロール容器(容量約900ml)に、生のまま十分に圧縮しながら充填する。なお、これにより約400g充填できる。採取したV-5型スチロール容器を入れ、ビニール袋に採取地点名、採取日時を記入する。

イ 核種濃度測定用試料の採取

核種濃度測定用としてビニール袋に約3kg採取する。

なお、採取する際には、葉菜類に付着した放射性物質が飛散しないようにビニール袋をかぶせ、根元から切り取り、詰める。ビニール袋には採取地点名、採取日時を記入する。

ウ 採取の報告・記録

採取の報告は、行政無線等の通信連絡手段により、迅速かつ的確に情報収集チームに報告する。また、採取地点名、採取日時等を環境試料採取記録表(様式-4)に記入する。

(5) 陸土

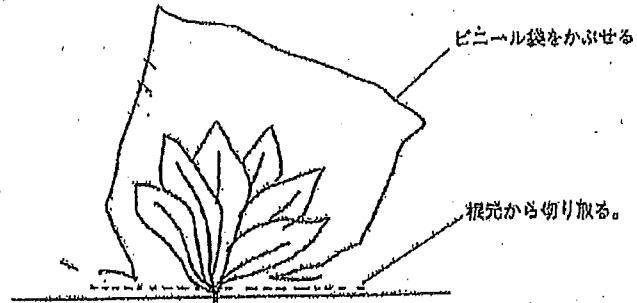
ア 採取

核種濃度測定用としてV-5型スチロール容器(容量約900ml)のふたをとり、口を下にして地面に置き、周辺の土壌を移植ごてで取り除き、容器を地中に押し込み直接採取する。なお、これにより約300g充填できる。

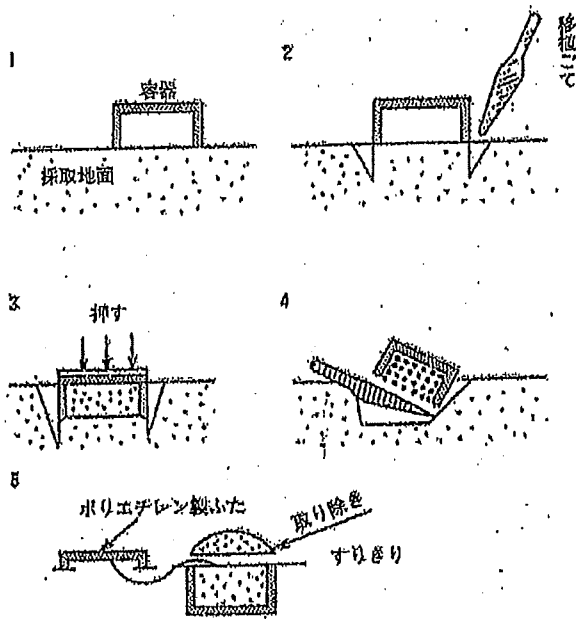
また、陸土を採取したV-5型スチロール容器をビニール袋に入れ、ビニール袋に採取地点名、採取日時を記入し、封をする。

イ 採取の報告・記録

採取の報告は、行政無線等の通信連絡手段により、迅速かつ的確に情報収集チームに報告する。また、採取地点名、採取日時等を環境試料採取記録表(様式-4)に記入する。



野菜（葉菜類）の採取



陸土の採取

5 核種濃度の測定

(1) 試料の前処理

試料の前処理については、放射能測定シリーズ24「緊急時におけるガンマ線スペクトロメトリーのための試料前処理法」(科学技術庁 平成4年)に準じておこなうものとする。実験室内や他の試料を汚染しないように、実験台には紙などを全面にひき、試料を測定容器に移したら採取したときに使用したビニール袋などを包んで廃棄する。また、作業するときはゴム手袋を着用する。

大気浮遊じんは、活性炭カートリッジから、活性炭だけをU-8型プラスチック容器に移し、その上に集じんろ紙(HE-40T)をのせ密閉する。

飲料水、牛乳、海水は、5ℓのポリ瓶から、2ℓマリネリ容器に移し密閉し測定する。野菜はポリ袋から2ℓマリネリ容器に移し密閉する。

陸土、海底土は、V-5型ステロール容器ごと測定する。

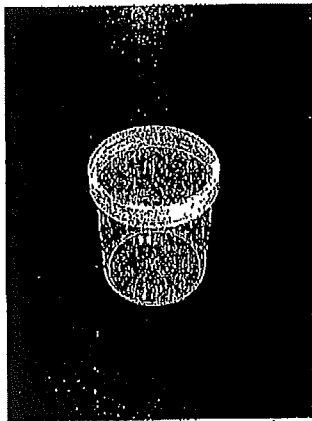
なお、いずれの試料においても、測定容器は、ポリ袋に入れ、Ge半導体検出装置の汚染を防止する。

(2) 計測時間等

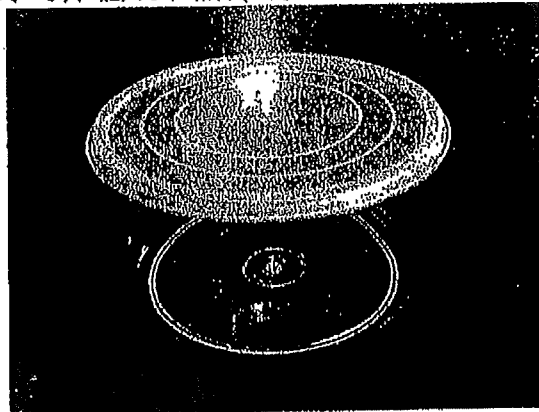
Ge半導体検出装置による計測時間は、1000～2000秒程度とし、ピーク面積の算出、放射能濃度の計算は、平常時同様、コンピュータで処理する。

緊急時における核種分析は、 ^{131}I に注目すれば十分であると思われるが、他の人工放射性核種についても解析を行う。

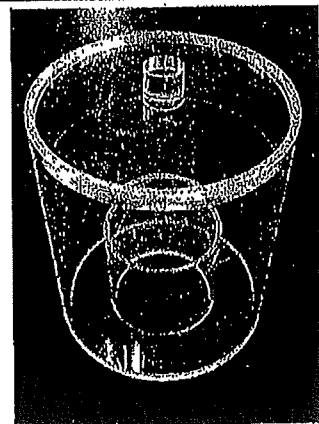
測定結果は環境試料の核種分析結果(様式-6)に記入し、報告する。



U-8型プラスチック容器



V-5型
ステロール容器



2リットル マリネリ容器